

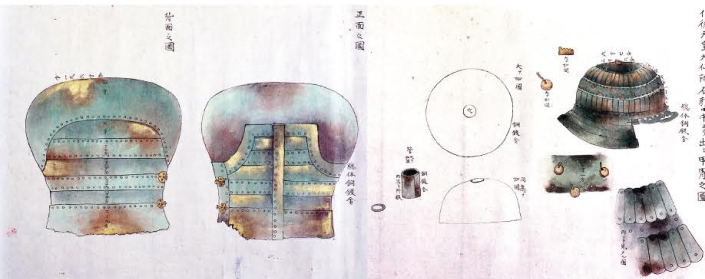
筒井家に伝わる資料

明治時代になると、宮内省が陵墓の管理を所管し、地元の人々が国の官吏として実務を担いました。

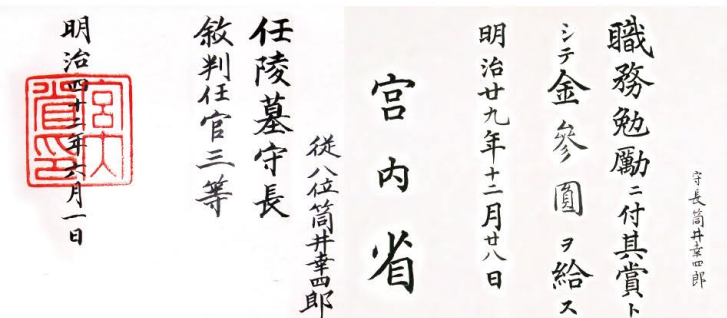
明治28年(1895)、筒井家当主の筒井幸四郎が守長に採用されます。筒井幸四郎は誠実に任務を務め、守長から陵墓守長、陵墓監と職階を上げ、大正11年(1922)に死去するまで仁徳天皇陵古墳など陵墓の管理に携わりました。

筒井家には宮内省からの辞令や賞状のほか、百舌鳥古墳群の古墳配置図としては最古の図面や仁徳天皇陵古墳の副葬品を描いた絵図が残されています。

この絵図は明治5年(1872)に発見された仁徳天皇陵古墳前方部にあった竪穴式石室内の遺物のうち甲冑を詳細に描いたものであり、仁徳天皇陵古墳の副葬品の一端を知ることができる資料として貴重です。



仁徳天皇大仙陵石郭之中ヨリ出シ甲冑之図(個人蔵) 堺市指定有形文化財



明治42年任陵墓守長辞令(個人蔵)

明治29年職務勉勵賞(個人蔵)

大阪府指定天然記念物 百舌鳥のくす

筒井家住宅の門長屋の前には、樹齢1000年を超えると推定されるクスの老巨樹があります。このクスは、この地が広く開墾された頃から雨乞いの効験あらたかな霊木として人々に親しまれています。

筒井家住宅の屋敷林には、クスのほかツブラジイの巨木などがあり、市の保存樹林に指定されています。

御廟表塚古墳や筒井家住宅など地域の歴史を物語る様々な文化財が豊かな自然とともに受け継がれています。



筒井家住宅門長屋と百舌鳥のくす



南海高野線「中百舌鳥駅」・大阪メトロ御堂筋線「なかもず駅」より西へ約400m
南海バス「中もず町」バス停より北へ約300m
※専用駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

史跡百舌鳥古墳群 御廟表塚古墳
令和7年(2025)3月初版発行/令和8年(2026)6月第2版発行
堺市 文化観光局 歴史遺産活用部 世界遺産課
〒590-0078 堺市堺区南瓦町3-1
Tel.072-228-7014 Fax.072-228-7251

デザイン:山本書院グラフィックス



史跡百舌鳥古墳群
御廟表塚古墳ページ

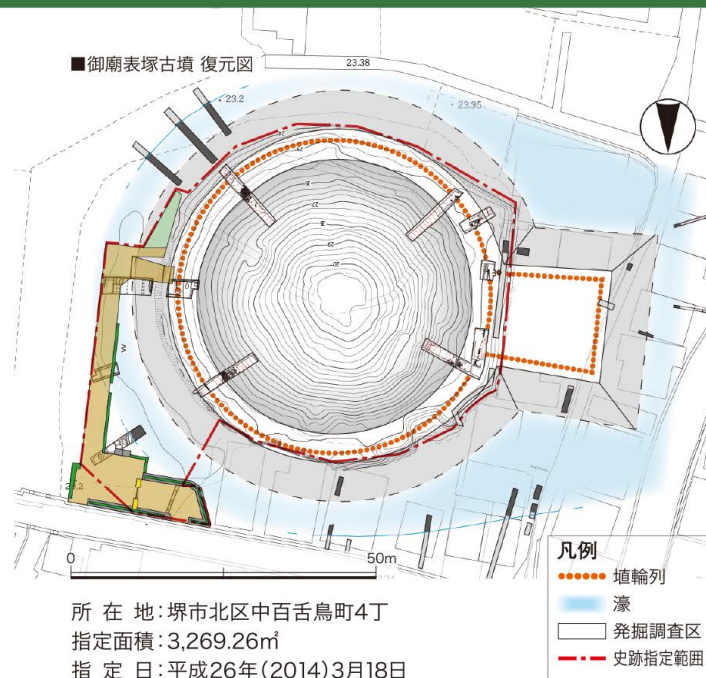


史跡 百舌鳥古墳群 御廟表塚古墳

御廟表塚古墳は百舌鳥古墳群の東辺にあり、百舌鳥川を見下ろす台地の縁辺部に築かれています。古絵図などからは周辺に複数の古墳があったと考えられますが、その多くは失われており詳細は不明です。川の対岸には、定の山古墳が向かい合うように今も残っています。

現在は円墳のように見えますが、発掘調査により、もともとは帆立貝形の前方後円墳であること、墳丘の周囲には濠が巡ること、墳丘の平坦面には礫が敷かれ小型の円筒埴輪が隙間なく並ぶこと、上段斜面には径10cm程度の小ぶりの葺石が施されていることがわかりました。くびれ部付近では蓋形埴輪などが見つかったほか、平坦面が外側へ一段下がると見られ、造り出しを持つ可能性もあります。墳頂部は未調査のため、埋葬施設や副葬品については不明です。

古墳の規模は墳丘長84.8m、濠を含めた全長は97mに復元できます。築造時期は埴輪の特徴などから5世紀後半、ニサンザイ古墳と同時期かやや遅れる時期と考えられます。



円筒埴輪列と葺石



円筒埴輪



明治時代の御廟表塚古墳と筒井家のイメージ図(作画: 山本尊敏 監修: 堺市)
「居宅全図」(明治16年)、国土地理院空中写真(昭和21年)、発掘調査成果をもとに作成

登録有形文化財 筒井家住宅

筒井家は戦国武将筒井順慶の末裔と伝わり、江戸時代には夕雲開という新田開発で中心的な役割を果たしました。明治時代以降は、当主が宮内省から陵墓守長に任命され、陵墓の保全に貢献しました。御廟表塚古墳も筒井家の畑や遊び場の「山」として、大切に守られてきました。

筒井家住宅は、江戸時代に新田会所(管理所)として建てられ、その後住宅となった建物です。屋敷全体を描いた「居宅全図」(明治16年)によると、敷地は土堀と濠で囲まれ、西高野街道から折れて入る外門を通り、墳丘に沿って南へ折れ、さらに東へ折れて屋敷に至ります。屈曲が多い土堀や通路、外門前の土堀で囲まれた空間は、敵の侵入に備えた城を思わせ、武家に由来する家柄を屋敷の構えで示していた可能性があります。

古墳の北側にある外門は、かつての筒井家住宅の正式な表門であり、江戸時代末の建築と考えられます。屋根瓦には「堺丹治利右衛門」など瓦職人を示す刻印が見られます。



外門の刻印瓦

外門



主屋